法親寺新聞

2016年
手書き新聞 No.22

こんにちは。釋 紗音です。
門徒さんのおうちにお参りに行かせていただいた時、「お元気でしたか？」と聞くと、「おかげさまで病気はしていません」とおっしゃる方がいらっしゃいます。
とても素敵な言葉ですが、今の時代、使われることが少なくなった様です。
自分の力で生きている。自分が働いているから食べている。という自分勝手な考えを持つ大人が増えていることも事実です。
おかげさまは、漢字で《お陰様》と書きますね。自分の目の見えない、気付かないところでも、助けられている、支えられていることを意味します。
誰かのお陰。色々なもののお陰。
《お陰》に《様》をつけて丁寧な言葉になった様です。
私は野菜が好きで、良く買いますが、スーパーに並んでいる野菜ひとつにしても、初めからあの姿だったのではありませんよね。農家の方が種から土に埋めて、肥料や水をあげて、自然の力である太陽の光を浴びて、すくすくと育っていきます。
出荷されてからも、配送業者さんから運ばれて、お店の方が並べて、私達が買うことができます。そして、野菜の命をいただいているのです。
一体どれだけ沢山のものに支えられて、私達は生きているのでしょうか。
そう考えると、本当に《お陰様》の人生です。目に見えないはたらきは、私達の気付かないところで常にはたらきかけてくださっている阿弥陀様のお慈悲も同じです。
仏教に触れると、全てのことが当たり前ではなかったと、気付かせていただきますね。

住職の法話

皆さんは修行と聞くとどんなことを想像されますか。
滝に打たれたり、水をかぶったり、火の上を歩いたり…
そんなことを想像される方もおられると思います。でも、これは他の宗旨の話ですね。
では私たちの宗旨浄土真宗の行とはどんなものでしょうか。
「思い浮かばないなあ～」と思案される方もおられると思います。
ただ仏教と名の付く限りは行の無い宗旨はありませんから、浄土真宗にも行はあります。
では親鸞聖人はその行をどのようにお示しくださったのでしょうか。
著書「教行信証」行巻に「大行とは、すなはち無碍光如来の名を称するなり」とあります。
浄土真宗の行は称名念仏すなわち南無阿弥陀仏を称えることだとお述べくださっているのです。
また歎異抄には「念仏は行者のために非行・非善なり」とあります。
これは行者にとっての念仏は往生のための念仏でもなく、善根功徳の念仏でもないということです。
すなわち、浄土真宗の念仏は阿弥陀様が私のところへ届き、私の口から念仏となって出ていく現象。私が称える念仏のようでも私の口を使って阿弥陀様が称える念仏、すなわち他力念仏なのです。だからその行は滝に打たれたり水をかぶるよりもっと価値のある尊い行だといえるのです。
お念仏申しましょう。南無阿弥陀佛

住職が、浄土真宗本願寺派岡山南組組長に就任致しました。

平成28年度より4年間の任期となります。組内だけではなく、教区やご本山の会議や行事などへの参加等、大変忙しくなりますが、ご門徒の皆様、ご協力下さい。

組長輪加数珠です

おしえて住職 Q&Aのコーナー

Q… おりんはいつ鳴らせば良いのですか？

A… お経をあげる時だけです。
仏様を呼ぶ為のものではありません。

法親寺 facebook はじめました！

お知らせ

お車は、隣接駐車場及び臨時駐車場、玉野高校駐車場をご利用下さい。

お盆法座

- ●日時● 平成28年7月16日（土）午後1時より
- ●場所● 法親寺本堂
- ●講師● 佐々木大觀師（兵庫県宍粟市 西願寺住職）